

令和3年度 南アルプス市立若草小学校 学校評価 後期自己評価書

南アルプス市立若草小学校
校長 名取 和仁

1 学校評価について

1 学校評価の目的 …学校評価ガイドライン (H28 改訂版) より

- ①各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ②各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

2 評価方法

(1) 実施期日 令和3年11月中旬

(2) 評価・アンケート項目

学校教育目標・目指す学校像・めざす児童像・めざす教職員像等を指針とし、以下の分類で項目を設定し、教職員による自己評価、児童・保護者に対するアンケートを実施した。

- ①教職員自己評価：「学校生活」「学習指導」「家庭学習」「生徒指導」「学校経営」「学校行事」「研究・研修」「施設・設備・安全管理」「家庭・地域との連携」
- ②児童アンケート：「学校生活」「学習指導」「家庭学習」「生徒指導」「学校行事」「携帯電話」
- ③保護者アンケート：「学校生活」「学習指導」「家庭学習」「生徒指導」「学校行事」「施設・設備・安全管理」「家庭・地域との連携」「携帯電話」

(3) 回答方法

今年度から、Google Forms による Web 上での回答とした。

(4) 分析・考察に向けての評価基準

①各項目について、下表の4段階で評価・回答を得た。4と3の評価・回答を合わせて肯定的意見(プラス評価)、2と1の評価・回答を合わせて否定的意見(マイナス評価)としてとらえた。

4：そう思う	3：どちらかというと思う	…肯定的意見(プラス評価)
2：どちらかというと思わない	1：そう思わない	…否定的意見(マイナス評価)

②各項目の平均値(少数第1位まで)を算出し、下表のように設定したカッティングポイントを判定基準ととらえるなかで、分析・考察につなげた。

[カッティングポイント]

3. 0以上	… A(良好である)
2. 9～2. 5	… B(概ね良好ではあるが、工夫・改善の余地がある)
2. 4～2. 1	… C(工夫・改善が必要である)
2. 0以下	… D(根本的に工夫・改善を図る必要がある)

※上記(1)の評価項目について、(2)の評価基準に照らし合わせながら、各学年による検討を行い、それを基に全体を通しての分析・考察を実施することにより評価結果とした。

2 後期自己評価結果（自己評価書）

1 本年度の学校教育目標、めざす学校・児童・教職員像について

【学校教育目標】

- ①かしこい子ども
- ②美しいものに感動する子ども
- ③思いやりのあるやさしい子ども
- ④たくましく生きぬく子ども

(1) めざす学校像

- ①児童にとって楽しく希望にあふれ充実した学校
- ②保護者にとって信頼できる学校
- ③教師にとって創意が生かされ働きがいのある学校
- ④地域にとって開かれた学校

(2) めざす教職員像

- ①使命感と情熱にあふれる教職員
- ②児童と真剣に向き合い、心を理解できる愛情あふれる教職員
- ③豊かな人間性と教養、専門的知識を兼ね備えた教職員
- ④保護者及び地域の期待に応え、信頼される教職員

(3) 児童の具体目標

- ①授業に集中する子ども（話を最後までしっかり聴くことのできる子ども）
- ②気持ちのこもったあいさつができる子ども
- ③一生懸命にそうじができる子ども
- ④体育や休み時間に元気に活動できる子ども

2 教職員自己評価、児童アンケート、保護者アンケートについて

自己評価・アンケートの各項目内容および項目数については、昨年度、小中一貫教育推進の観点から若草南小学校との共通項目を調整・精選し、焦点化・明確化を行った。

回答方法については、前期と同様に、Google Forms を用いて実施した。教職員および児童にとっては ICT 活用能力の向上につながった。保護者アンケートの回収率は、96.3%という結果となった。前期の回答率が71.5%であったことから、保護者に対して回答確認票の提出を求めたこと、一斉メール送信（2回）の手段を用いたことが、今回の回答率の向上につながったと考えられる。

3 評価と改善策

(1) 評価の全体的な概略

①職員による自己評価

- ・全18項目においてA判定であった。

本校の教職員が、学校教育目標やめざす学校像等（以下、学校教育目標等）を十分に意識して教育活動（職務）の遂行に努めていることが確認できた。

- ・前期の評価結果よりすべての項目において0.1～0.4ポイント上回った。

今年度はコロナ禍においてもできる限りの教育活動を実施している。教職員一人一人が前期の結果を踏まえ、学校教育目標等の達成に向け内容レベルの一層の向上を目指した結果の現れであると考えられる。

- ・評価が低い（3.3）項目がある。

⑧「家庭学習定着の手立ての工夫」については、家庭学習強化週間等の取組により、前期よりも0.2ポイント上昇した。しかし、家庭の理解度や家庭との連携・協力の在り方について難しさを感じていることがうかがわれた。今後も校内研究等を通じて、継続的に家庭学習の習慣化促進についての理解を深めていく必要がある。

②児童によるアンケート

- ・全12項目においてA判定であった。(携帯電話に関する項目を除く)

コロナ禍ではあるがいずれの項目も前期と同程度の評価となった。多くの児童が学校生活に対して前向きに望んでいる姿勢がうかがわれる。

- ・評価が低い(3.3)項目がある。

③「自分から進んであいさつをする」の項目については、前期よりも0.2ポイント下回り、他の項目と比較しても低い評価となった。児童会による継続的な取組が求められる。

③保護者によるアンケート

- ・12項目中11項目においてA判定であった。(携帯電話に関する項目を除く)

概ね前期と同傾向の回答状況であった。

- ・前期の評価結果を0.1～0.2ポイント下回った項目があった。

コロナ禍にあっても、保護者の学校に対する期待は大きく、確かな教育活動の実施が求められていることがうかがえる。

- ・B判定の項目がある。

⑨「教育活動に適した施設・設備が整っている」(2.9)はB判定であった。体育館床の修繕を早急な対応はしたものの、校舎の老朽化に伴う使用制限等が大きく影響していると考えられる。

以上が後期学校評価の全体的な概略であるが、この結果については、教職員全体で真摯に受け止め、共通理解をもって改善に努め、来年度の教育活動に生かしていきたい。

なお、携帯電話の項目については、市で統一した内容での調査の為、全体的な評価の概略からは除外してある。

(2) 分類毎による項目の評価と改善策

I 学校生活について [対象：教職員・児童・保護者]

【考察】

- ・自己評価、アンケートともにいずれの項目においてもA判定であり、概ね良好な学校生活を送られている状況がうかがえる。
- ・「あいさつ」の項目は、教職員3.6、児童3.3、保護者3.0と前期同様に低い値となった。児童会による継続的な取組に加え、家庭・地域との連携も求められる。

【改善策】

- ・今年度、校内では児童会活動によるあいさつ運動等を手立てとして、全校であいさつの輪を広げている。今後も、児童の自治的な活動を中心にして継続的に取り組みつつ、家庭への啓発や地域の「見守り隊」とも連携し、あいさつの推進にも継続して取り組んでいく。

II 学習指導・III 家庭学習について [対象：教職員・児童・保護者]

【考察】

- ・自己評価、アンケートともにいずれの項目においてもA判定であり、概ね良好な学習活動が進められている状況がうかがえる。
- ・「学習指導」の項目では、教職員は前期以上に教材研究を重ね、授業改善に取り組んできた成果が反映されていると思われる。今後も、不断の授業改善を怠らない。
- ・「家庭学習」の項目では、家庭学習強化週間等の取組もあり意識が高まってきている。一方、家庭での自主学習の取り組み状況については個人差が大きく、家庭学習のとらえ方には、保護者によっても違いがみられる。

【改善策】

- ・「学習指導」については、PDCAサイクルを意識した普段の授業改善に取り組んでいく。また、小中一貫教育の実現に向けて、教育課程の見直し・検討を重ね、来年度の評価項目に加えていく。
- ・「家庭学習」については、家庭の協力も得ながら連携して学習習慣が身につけられるように、「家庭学習習慣化促進事業」の成果を参考にしながら進めていく。

IV 生徒指導について [対象：教職員・児童・保護者]

【考察】

- ・自己評価、アンケートいずれの項目においてもA判定であり、おおむね良好である。
- ・教職員は児童理解に努め、いじめや問題行動等の対処も適切に行っている状況がみられる。
- ・児童「友達の嫌がることを言ったり、やったりしていませんか」の項目について、否定的回答率が10%弱あるので、対応策が求められる。

【改善策】

- ・いじめについては、「絶対にやってはいけないもの」という毅然とした態度での指導を、今後も継続的に行い、温かい人間関係の構築を図っていく。
- ・学校での児童の様子や指導した内容を適時に家庭へ伝える等、学校と家庭の連携を今後も継続的に行い、同一歩調で児童の成長を支えていく。

V 学校経営・VI 研究研修について [対象：教職員]

【考察】

- ・自己評価の結果、いずれの項目についてもA判定であり、良好な学校経営がなされ、校内研究などにも真摯に取り組んでいる状況をうかがえる。

【改善策】

- ・今後も互いに連携を図りながら学校づくりと研究の推進に努めていく。

VII 学校行事について [対象：教職員・児童・保護者]

【考察】

- ・自己評価、アンケートともにA判定の評価であった。
- ・おおむね高評価であり、コロナ禍であっても感染症対策を十分確保し、できる限りの教育活動を行うという校長の方針が児童にも浸透していることがうかがえる。

【改善策】

- ・コロナ禍においても、感染症対策を十分にとり、今後も丁寧な説明と情報発信に努め、保護者・地域の理解を得ながらできる限りの教育活動を行っていく。

VIII施設設備・安全管理について [対象：教職員・保護者]

【考察】

・保護者「教育活動に適した施設・設備」においてB判定であり，学校の施設・設備の老朽化に対し，不安を抱いた保護者が多かったことがうかがえる。

【改善策】

- ・今後，可能な限り修繕等を行い，校舎や施設を大切に利用していく。
- ・安心・安全な新校舎の実現に向け，関係者・諸機関と密に連携して取り組む。
- ・交通安全対策として，継続して「見守り隊」の協力を頂き，登下校の安全確保に努める。

IX家庭・地域との連携について [対象：教職員・保護者]

【考察】

・自己評価，アンケートともにA判定であり，概ね良好である。保護者「情報提供」「家庭・地域の相談等への対応」の評価については，前期同様の結果となった。学校メールや各種たよりを通じて情報提供を頻繁に行ったが，ホームページによる積極的な発信は少なかった。

【改善策】

- ・今後は，ホームページの積極的な活用にも力を入れ，適時・的確な情報提供に努める。
- ・コロナ禍のため，地域の方々を学校にお招きする機会が減少しているが，相談及び要望に対応する場面を，情報共有・発信のチャンスとらえ，良好な関係作りの一助とする。

携帯電話について [対象：児童・保護者]

【考察】

- ・所有率は，児童42.8%（昨年同期－8.8ポイント），保護者30.9%（昨年同期－6.1ポイント）であり，いずれも昨年同期を下回った。
- ・家庭でのルール決めについては，児童82.4%（昨年同期－0.2ポイント），保護者92.8%（昨年同期－3.2ポイント）がという結果であり，昨年同期を下回っている。
- ・ルール決めについて，保護者は決めているつもりでも，児童はあまり意識していないことが考えられる。家庭内での共通理解が必要である。
- ・インターネットやSNSを利用する際の注意点については，家庭と連携しながら，より有効で安全な利用の仕方について，折に触れ指導していく。